

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

1 モニタリング状況（参考数値）

集計期間：令和2年12月14日（月）～12月20日（日）

	指標	数値	前週	目安基準
(1)	直近1週間の新規陽性者数	405人	304人	—
(2)	直近1週間の人口10万人当たりの累積新規陽性者数 (陽性者数/(153万人/10万人))	26.47人	19.87人	2.5人未満 (※1)
(3)	週当たりの陽性者増加比 (当該週の陽性者数/前週の陽性者数)	1.33	1.37	<1(※2)
(4)	直近1週間の感染経路不明者の割合 (感染経路不明者数/陽性者数)	39%	46%	50%未満 (※3)
(5)	直近1週間の陽性率(※4) (陽性者数/検査実施人数)	8.72%	7.63%	—
(6)	入院中の患者数(※5) (疑似症患者を含む)	116人	108人	感染症患者受入病床 263床
(7)	入院中の患者のうち重症者数(※5) (疑似症患者を含む)	11人	16人	重症病床 30床
(8)	全療養者数(※5)(入院中、宿泊療養及び自宅療養者合計(疑似症患者は含まない))	692人	503人	—

これらの数値は、速報値として公表するものです。

※1 神奈川県警戒アラート指標の基準を準用

※2 新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言（新型コロナウイルス感染症対策専門家会議「緊急事態措置の解除の考え方」）より引用

※3 神奈川県の再警戒モニタリング指標の基準を準用
(再警戒基準：新規陽性者数が10人以上の時、50%以上)

※4 健康安全研究所及び民間検査機関による検査実績から算出（本市発表外陽性者も含む）

※5 12月20日(日)現在の報告数（前週分は、12月13日(日)現在の報告数）

2 評価

令和2年12月14日（月）～12月20日（日）の川崎市内におけるモニタリング状況は、(1)新規陽性者数は前週の304人から405人（前々々週229人、前々週222人、前週304人）とさらに大きく増加しました。その他の指標についても、(2)直近1週間の人口10万人あたりの累積新規陽性者数は、前週19.87人から今週26.47人とさ

らに増加し、目安基準 2.5 人未満を上回ったままとなっています。(3) 週当たりの陽性者増加比は、前週 1.37 から今週 1.33 と停滞し、目安基準 1 以下を上回ったままとなっています。(4) 直近 1 週間の感染経路不明者の割合は、前週 46% から今週 39% と減少し、変わらず目安基準 50% を下回っています。(5) 直近 1 週間の検査陽性率は、前週 7.63% から今週 8.72% と増加しました。

(6) 入院中患者数は前々週 91 人、前週 108 人から、今週は 116 人とさらに増加しましたが、(7) 入院中患者のうち重症者数は、前々週 21 人から前週 16 人、今週 11 人と続いて減少しています。(8) 全療養者数（入院中、宿泊療養及び自宅療養者合計）は前々週 389 人から前週 503 人、今週は 692 人とさらに増加しました。

(1) 全体の新規感染者数、(2) 直近 1 週間の人口 10 万人あたりの累積新規陽性者数、(5) 直近 1 週間の検査陽性率は、2 週続けて増加しました。(3) 週当たりの陽性者増加比は停滞、(4) 直近 1 週間の感染経路不明者の割合は、やや減少しています。

入院中の患者数はやや増加しましたが、重症患者数は減少、全療養者数は明らかな増加となっています。なお、感染症患者受入病床は 263 床中 116 人入院、重症病床は 30 床中 11 人入院となっています。

多少の増減はありますが、川崎市内の感染の状況は 2 週連続して増加傾向にあると言えます。幸い重症患者数は減少したものの、入院中患者数・入院患者を含む全療養者数は、2 週連続して増加傾向になっています。新型コロナウイルスによる入院患者数が増加するとそちらの医療に人手・病床などがとられ、通常の医療・救急医療などにも影響が出てくるので、入院数、殊に中等症・重症の増加を抑える必要があります。そのためには、出来るだけ感染が広がらないようにする必要があり、一人一人が感染しないように、感染させないように、一層のご注意、ご協力をお願いいたします。

引き続き、三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時はマスクをつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなど、日常生活においての基本的な、そして重要な注意を続けられますよう、重ねてお願いいたします。

例年ですと、忘年会やクリスマス会シーズンとなりますが、今年は普段から一緒にいる方々などとの少人数で、感染のリスクを下げながら静かめに楽しんでいただければと思います。また年末年始にどちらかへお出かけになるときには、混雑する場所や時間帯はできるだけ避けて、家族単位などの少人数で、ゆっくりと過ごされることをお勧めします。

なお、市内 61 か所のインフルエンザ定点から毎週報告を頂いているインフルエンザの発生動向につきましては、第 50 週（12 月 7 日～12 月 13 日）の発生報告も第 43～49 週と同じく 0 でした。したがって第 36 週（8 月 31 日～9 月 6 日）～第 50 週（12 月 7 日～12 月 13 日）の市内のインフルエンザ報告数は依然 1 に留まっています。